

聖書日課 『からし種』 2023.1.15－1.22

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>1月15日 (日) 申命記 22章</p> | <p>「同胞の牛または羊が迷っているのを見て、見ない振りをしてはならない。必ず同胞のもとに連れ返さねばならない」(1節)。「見て見ぬ振り」をして通り過ぎるか、それとも「手を差し伸べる」のか。私たちはしばしば自分の小さな愛を揺さぶられる経験をする。「ねばならない戒め」としてではなく、主イエスの愛に触れた「感謝の応答」として行動できますように。</p> |
| <p>16日 (月) 申命記 23章</p> | <p>「主人のもとを逃れてあなたのもとに来た奴隷を、その主人に引き渡してはならない」(16節)、「望むがままにあなたと共に住まわせなさい。彼を虐げてはならない」(17節)。これほど奴隷に寛大な戒めは当時珍しかった。イスラエル自身がエジプトの奴隷から解放された経験が大きい。わたし自身が主からいただいた大きな恵みが、その行動の礎となるように。</p> |
| <p>17日 (火) 申命記 24章</p> | <p>「畑で穀物を刈り入れるとき、一束畑に忘れても、取りに戻ってはならない。それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい」(19節)。主からの祝福や恵みは、自分や自分の家族だけで独り占めにはすることはありえなかった。主からの祝福や恵みは分かち合い、喜び合うものだから。それに比べて、わたしの視野は何と狭く、わたしの祈りは何とせせこましいことだろうか。</p> |
| <p>18日 (水) 申命記 25章</p> | <p>「あなたの家に大小二つの升を置いてはならない。あなたが全く正確な重りと全く正確な升を使うならば、あなたの神、主が与えられる土地で長く生きることができる」(14－15節)。わたしたちは「はかり」を大小で使い分けていないだろうか。自分に甘く、他人に厳しい「はかり」、強い人の前では小さくなり、弱い人の前では大きくなる「はかり」がないだろうか。</p> |

聖書日課 『からし種』 2023.1.15-1.22

| | |
|---------------------------------------|---|
| <p>19日 (木)</p> <p>申命記 26章</p> | <p>「あなたの神、主があなたとあなたの家族に与えられたすべての賜物を、レビ人およびあなたの中に住んでいる寄留者と共に喜び祝いなさい」(11節)。イスラエルの民も、自分たちが旅をし、寄留者であるときは旅人に寛大だったが、定住生活が長くなると、旅人への寛大さを忘れるようになったという。「神の国の旅人」というアイデンティティを今朝、心に刻んで。</p> |
| <p>20日 (金)</p> <p>申命記 27章</p> | <p>「イスラエルよ、静かにして聞きなさい。あなたは今日、あなたの神、主の民とされた」(9節)。「今日」、わたしに向かって語られている主の御声を聴くためには、「静かにする」必要がある。しかも「厳しい言葉」を聴くときはなおさらである。うれしい励ましの声は聴きやすい。しかし、耳の痛い、心の真ん中に刺さってくる主の言葉の前に「静まる」ことができるように。</p> |
| <p>21日 (土)</p> <p>申命記 28章</p> | <p>「あなたが、すべてに豊かでありながら、心からの喜びと幸せに溢れてあなたの神、主に仕えないので、あなたは…すべてに事欠くようになる」(47-48節)。豊かに祝福をいただいた時、我が手を開き、人々と分かち合うことは何と難しいことだろうか。豊かさを手にすればするほど「そそのかす声」が強くなる。今日、主の言葉に誠実に応える信仰をいただいて。</p> |
| <p>22日 (日)</p> <p>申命記 29章</p> | <p>「この契約の言葉を忠実に守りなさい。そうすれば、あなたたちのすることはすべて成功する」(8節)。これはモアブで結ばれた契約。もし、偶像に仕えるようなことがあれば、恐ろしい呪いの誓いも交わされている。実際にそうなっていくのであるが、私たちの救いのために主の十字架という最高の犠牲が払われた事を覚えたい。</p> |